

## INDEX

### 1 学生による授業モニター制度がはじまります

2016年度からFD推進センターの新しい取り組みとして、学生による授業モニター制度がはじまります。2016年度は、トライアル実施ということで、新任教員の希望者とFD関係教員の授業にて実施します。今回は、制度概要をご案内します。

### 2 前年度授業相互参観の実施報告書から

2015年度に、各学部・センターにて実施した授業相互参観について、年度末に実施報告書を取りまとめ、ご提出いただきました。取り組みの工夫や、改善点など、参考になる情報をピックアップしてご紹介いたします。

### 3 2016年度FD推進センター主催イベント予定のご案内

2016年度に、FD推進センターで企画しているイベント予定をご案内します。是非、お誘いあわせのうえ、ご参加ください。お待ちしております。

発行：  
法政大学  
教育開発支援機構  
FD推進センター

ホームページ  
<http://www.hoseikyoku.jp/fd/>

問い合わせ先  
[fd-jimu@hosei.ac.jp](mailto:fd-jimu@hosei.ac.jp)

## 1 学生による授業モニター制度がはじまります

「学生の声を聴く」この方法のひとつとして、本学ではすでに授業改善アンケートなどを取り入れていますが、あらたに『学生による授業モニター制度』を取り入れることになりました。

『学生による授業モニター制度』は、事前研修を受けた学生授業モニターが授業を参観するものです。学生授業モニターは、該当授業の担当教員の板書方法、話し方や授業方法等で気が付いた内容をチェックシートに記入し、授業後に担当教員へフィードバックを行います。教員は、学生授業モニターからのフィードバックを受け、授業改善にむけた気づきを得る機会として活用することができます。今年度は、まずはトライアルとして新任教員の希望者とFD関係教員の授業から実施しています。すでに、モニター希望学生は、46名集まっており(市:30名、多11名、小5名)、5月19日より事前研修が始まっています。模擬授業からの演習や、わかりやすいフィードバックの伝え方などを学んでいます。

Q 授業改善アンケートでも学生から授業に関する意見をもらっているが、授業モニター制度とはどこが違うのですか？



A どちらも、学生の声を聴くツールとしては同じですが、授業モニターは一般的な受講学生ではなく、モニターポイントについて事前に研修を受けた学生によるものです。「授業を良くするために」という目的をしっかりと理解した学生が授業を参観することで、授業改善アンケートとはまた違った視点で客観的な意見を収集することが可能となります。

Q 授業モニター学生は、どうやって選出しているのですか。



A 授業モニター学生の選出は、公募制を採用しています。事前研修を受け、派遣資格を得たモニターの実施可能時間と、授業モニターを希望する教員のコマとの日程を勘案し、配置します。

Q どんな内容を授業モニター学生はチェックしてくれるのですか。



A 事前にFD推進センターで作成している「基本チェック事項」の他に、必要な場合は、担当教員とモニター学生とで決めることも可能です。「基本チェック事項」の例としては、授業編成、教員の話し方、板書、PPTや資料などに関する項目を事前に準備しています。

Q 学生による授業モニター制度の実施のながれについて、教えてください。



A ①担当教員とモニター学生との事前打ち合わせ(どこを確認してほしいか)、②実際の授業参観(90分)、③参観後、チェックシートを用いた担当教員へのフィードバックおよび意見交換、の3本立てで実施します。3本立てすべて同日での実施でも、日を分けての実施でも可能です。モニター学生との日程調整により、決定します。1授業あたり、2名以上のモニター学生を配置します。

2016年度については、トライアルとして、新任教員の希望者を募って実施します。以降、順次その他教員にもご利用いただけるよう環境を整えていく予定です。新任教員の方で、利用を希望される方は、[fd-jimu@hosei.ac.jp](mailto:fd-jimu@hosei.ac.jp)までご一報ください。

## 2 前年度授業相互参観の実施報告書から

2015年度に各学部・センターにて実施した授業相互参観について、年度末に実施報告をご提出いただきました。取り組みの工夫や改善点など、参考になる情報をピックアップしてご紹介します。是非、他学部のアイデアや取り組みを参考にいただき、今年度の実施の際にお役立てください。 ※以下、各学部よりご提出いただきました報告書原文より該当箇所を抜粋して掲載しています。

### 【取り組みの工夫】 参観者



- ・例年執行部が参観することが多かったが、本年度は執行部のみならず、着任1～2年目の教員、内部質保証委員も参観を行った。実施したすべての科目において、参観後のフィードバックが実施され、科目によっては、参観者・授業担当者間の意見交換も行われた。(営)
- ・ゲスト講師制度を利用した外部講師を招いての授業を通じた実施をしている。(社)
- ・全専任教員の授業にアポなしで参観できる「オープン・クラス・ウィーク」を半期ごとに一週間設ける案について、次年度の検討課題とする。(文)
- ・実施期間内に各学科の専任教員数の1/3以上の教員の参観を原則としている。(理)
- ・公開範囲を学部内だけでなく法政大学教職員としている。(現)(生)

### 【取り組みの工夫】 活用方法について

- ・講義の進め方はもとより、授業支援システムの使い方、小テストや資料の作成方法など参考になる点が多かった。また学生の様子を客観的に捉えられた(法)
- ・授業相互参観を実施し、報告と質疑応答の内容から、2016年度シラバスより、「授業中に求められる学習活動」というタイプという項目を新設した。(CD)
- ・従来の2教員間の相互参観だけでなく、自らの授業を振り返り、気づきを得るためのセルフ授業参観(ビデオ記録)による取り組みや、合宿に参加して授業参観を行った例もあった。(国)
- ・履修者数が多い講義、中規模教室における講義、少人数の講義の3種類に分け、人文系、社会科学系、自然科学系と異なった領域の講義を参観するように工夫した。(環)
- ・①新任教員が参観者となる研修型、②授業相互参観、③ビデオ機材を利用したセルフ参観型と、3形式による実施をおこなった。(市リベ)
- ・基礎科目において類似の授業を複数クラスで行っている科目を中心に実施した。学生の理解度に幅がある場合の授業の進め方について、担当教員間で情報共有ができ、クラス間の進捗度のバランスをとるのに役立てることができた。(情)
- ・学科主催の科目について全教員(兼任も含む)を対象として、授業をビデオ撮影し、相互に参観できるようにしている。具体的には、授業冒頭10分間程度をビデオ撮影し、学内の共有サーバー(専任教員むけ)、学科事務内の共有PC(兼任教員むけ)にアップロードして適宜確認するようにしている。(デ工)
- ・若手専任教員やベテラン兼任講師の授業の創意工夫からは経験のある学部教員も学ぶべきことが多く、逆に、新規兼任講師に対しては学生の注意のひき方、板書やスライドの工夫など授業運営のスキルについてアドバイスができ、相互に得るものがあった。(GIS)
- ・この制度が自身の授業に対する振り返りにもなり有意義な制度である。(スポ)

### 改善案

- ・参観者も多忙な中、授業参観を効率的に行うには、参観者にチェックしてもらいたいポイントを予め提示する方法が考えられる。(CD)
- ・兼任講師を含めた授業参観の対応を検討していきたい。(済)
- ・他学部との交流も実現できればと考えている。(生)
- ・授業相互参観の実施科目数の向上および実質的なフィードバック方法の検討を行っていきたい。(小リベ)

## 3 2016年度FD推進センター主催イベント予定のご案内

対象: 全教職員

**7月9日(土) 第5回新任教員FDセミナー(市ヶ谷キャンパス 外濠校舎S407教室)**

「私の授業の工夫」というテーマのもと、文学部・情報科学部・スポーツ健康学部の先生に事例をご紹介します。

対象: 学部執行部

**7月16日(土) 第15回FDワークショップ(市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー スカイホール)**

教育目標、3つのポリシー、カリキュラムマップ等に関する内容を予定しています。

対象: 全教職員

**9月2日(金) 第16回FDワークショップ(市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー スカイホール)**

1部は全教職員むけ、2部はSD研修に関する内容を予定しています。

その他、11月12日(金)第13回FDシンポジウム、12月24日(土)第9回FD学生の声コンクール授賞式、1月18日(水)第10回FDミーティングも予定しています。